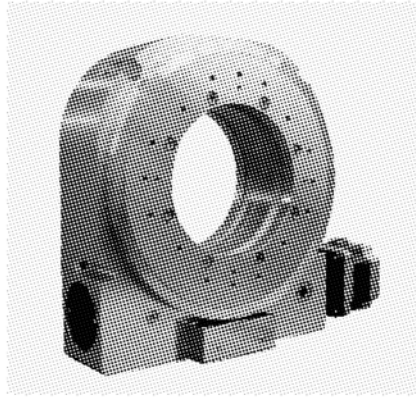


神津精機

回転ステージ C.T.放射光業界向け

軸振れを極小化



【川崎】神津精機（川崎市麻生区、内藤利明社長、044・981・2170）はコンピュータ断層撮影装置（CT）向け回転ステージ（直径300ミリ）「WBRA

30」写真」を発売した。軸振れを示す偏心量が1ミクロン、垂直耐荷重100キログラムを実現した。価格はオープンで、130万円程度の見込み。6タイプをシリーズ化し、CTや放射光業界

向けに、初年度100台の販売を見込む。同ステージは軸受方式を採用した。ステージモーターに連結

したシャフトのギアを回転し、ホイールの円盤部分を回転させる仕組み。回転部のインナーレース（ベアリングボールが転がるガイド部の溝）の加工技術を生かし、インナーレースとウォームホイールの間にベアリングボールを入れた。点接触にして全方位を支える高精度組立技術により、偏心量の極小化を実現した。

回転範囲は約185度でブレインドをなくした。累積誤差が0.003度、水平耐荷重が500キログラム。大口径の透過穴

を標準装備した。

電子部品・精密機械部品、化学材料、バイオ、医用分野ではCTを用いた非破壊観察、内部解析が行われており、データの高精度化が求められている。CT試料台の軸振れがデータの質に影響するため、無偏心回転試料台のニーズが強まっている。